

丹波市観光アンバサダー第1号 俳優の新木宏典さんが就任



観光サポーターに見届けられながら観光アンバサダーに就任した新木宏典さん（写真前列中央）

丹波市の認知度を高め、観光客を呼び込むことを目的とした観光アンバサダー第1号に、丹波市出身で俳優の新木宏典さんが就任し、5月31日、たんば黎明館で任命式を行いました。式典には全国各地から選ばれた、「観光サポーター」36人も出席し、市の魅力発信について新木さんと意見を交わしました。

新木さんは、「丹波市の魅力をみっちりと宣伝していきたい」と意気込みを語りました。

未来の乗りもの体験やエコ診断でCO2削減へ たんばゼロカーボンアクション



短距離移動用乗りもの WHILL を体験する親子連れ

「たんばゼロカーボンアクションプロジェクト」の第1弾として、「未来の乗りものを体験しよう！ & 家計を助ける省エネ診断」が、5月19日、丹波ゆめタウンで開催されました。ゼロカーボンシティ宣言を表明し、2050年までに二酸化炭素排出量実質ゼロをめざし地球温暖化対策を進めるもので、訪れた親子連れらは、水素で走る燃料電池自動車の見学やWHILLの体験などを楽しみながら、環境にやさしい生活について学んでいました。

すごろくで丹波市を探索しながら課題解決 ボードゲーム「TMK」が完成

5月30日、水分れフィールドミュージアムで、すごろくで丹波市を探索しながら与えられた課題解決をめざす中学生向けオリジナルボードゲーム「TMK」の完成披露会が行われました。

「TMK」は「丹波」「魅力」「課題」の頭文字を取ったもので、制作には高校生が創る丹波の未来への架け橋プロジェクトのメンバー9人とボードゲーム愛好家や地域住民らが加わり、地域の課題や名所を提供してもらうなど、地域ぐるみで創り上げました。今後は市内中学校に配布するほか、住民センターなどに設置し、市民向けに貸出も行う予定です。



オリジナルボードゲームを楽しむ高校生や地域住民ら

北近畿豊岡自動車道氷上インターチェンジ付近で 弥生時代の土器や柱跡を発見

北近畿豊岡自動車道の氷上インター近くの民有地で、ホテル建設に伴って行われた発掘調査により弥生時代の掘立柱建物や溝、柱跡と弥生土器が発見されました。深さ約1mのところでは直径約20センチの柱跡が確認されたほか、溝からは弥生土器の高坏や甕、壺も出土しました。

柱の跡は記録に残して埋め戻し、発掘された土器は回収して、今年度中の企画展で展示を予定しています。



遺跡から出土した土器（写真左）と埋まった状態の土器

第6回宇宙開発利用大賞で内閣総理大臣賞を サグリ株式会社が受賞



表彰状を手に笑顔みせる坪井俊輔さん（写真左）

丹波市を拠点に、衛星データとAIなどを組み合わせ農業課題や環境問題の解決に取り組んでいるサグリ株式会社が、第6回宇宙開発利用大賞の内閣総理大臣賞を受賞しました。

表彰を受け、坪井俊輔代表取締役は5月9日、市長を表敬訪問しました。

坪井さんは、「名誉な賞をいただき感無量です。私たちが持っている技術を用いて、地域の農業や環境に還元していきたい」と話しました。

JR 谷川駅でサン・マルシェ ティラノサウルス登場に大騒ぎ



突然のティラノサウルスの着ぐるみ登場に大さわぎの会場

JR 谷川駅とその周辺で5月12日、グルメと音楽を楽しむイベント「サン・マルシェ」（同実行委員会主催）が開催されました。

駅にぎわいプロジェクトの一環として開催され、今回で4回目。会場は、窯焼きピザやパン、カレーなどの地元グルメや音楽ステージなどにぎわい、改札口から登場した特別ゲストのティラノサウルス4頭がイベントをさらに盛り上げていました。

1,661 人がラストラン 第33回丹波市三ッ塚マラソン

5月12日、三ッ塚史跡公園を発着点とする丹波市三ッ塚マラソンが開催されました。愛育館の竣工記念として昭和63年から始まり、豪雨災害やコロナ禍を乗り越え再開されましたが、老朽化による愛育館の閉館にあわせ、今大会で閉幕することになりました。県内外から集まった1,661人の参加者は、市島地域の豊かな自然を感じながらラストランを楽しみました。

全大会フル出場の樋口正男さんは、「これまで大会を支えてくれた皆さまに感謝。完走できて良かった」と話しました。



小雨が降る中、ゲストランナーとして出場し大会を盛り上げた世界陸上銅メダリストの千葉真子さん（写真右）

丹波圏域の社会福祉法人として初の快挙 みつみ福祉会が「えるぼし」認定

社会福祉法人みつみ福祉会が、厚生労働大臣から丹波圏域の社会福祉法人として初めて「えるぼし」の認定を受けました。「えるぼし」は、女性の活躍推進に関する取組の実施が優良であるなど一定の要件を満たした場合に認定を受けるもので、みつみ福祉会は女性の活躍に関する状況把握や課題分析と取組が評価されました。

吉見直人理事長は、「これからも女性も男性も全ての職員が共に輝ける職場をめざしたい」と話しました。



えるぼし認定証を手にする吉見直人理事長（写真右）